

6. 東海（地域別調査機関：三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (東海)	◎	旅行代理店（経営者）	・希望的観測であるが、中東情勢の問題が終結して社会が落ち着けば景気は良くなる。
	○	一般小売店〔結納品〕（経営者）	・地域の神事に関する行事が8月初めに終われば、少し街が落ち着くとみられる。
	○	百貨店（経理担当）	・中東の地政学リスクは大きく下がるとみる。ただし、原油の調達や価格が安定化するには至らず、引き続きの物価高に伴う個人消費の萎縮や中小企業の業績悪化から、景気は大きく上向くことはないとする。
	○	スーパー（経営者）	・当地の神事に係る行事の恩恵を受け、来客数の増加に期待する。
	○	スーパー（店員）	・ますます暑くなることで日差しを避ける時間帯に来客数が増える。
	○	衣料品専門店（店長）	・中東情勢の改善により、作業関連の客の回復が見込まれる。地域経済の回復により個人の所得が改善し一般客の増加が期待できる。
	○	衣料品専門店（売場担当）	・ボーナスの支給や食料品の減税、中東情勢による影響の終結の見通しなど景気が好転する要素がみられる。
	○	家電量販店（フランチャイズ経営者）	・引き続きエアコンが売上がけん引する。ただし、中東情勢の影響で石油由来のプラスチック部材が品切れしており、売れても工事ができないこともあり得るため、そこが懸念材料である。
	○	乗用車販売店（経営者）	・中東情勢が落ち着けば、需要も増えていくものとみる。
	○	乗用車販売店（従業員）	・問合せの状況は悪くはなく、悲観要素も少ないため、全体の傾向としてはまだ悪くはない。客の動き全般をみる限り、悲観する状況ではない。今後良くなると期待する。
	○	乗用車販売店（営業担当）	・この先ガソリン価格が高くなる可能性はあるが、客から景気が悪いという話は余り聞かない。そろそろ車を買換えたいという話を多く聞くようになっており、在庫も比較的にあるため、話はしやすい。
	○	その他専門店〔雑貨〕（店長）	・小規模店舗の開店などの話題を耳にする。
	○	タクシー運転手	・政権の政策が好影響を及ぼしている。
	○	パチンコ店（経営者）	・お盆を迎え繁忙期となるため、やや良くなると期待する。
	○	美容室（経営者）	・5月にパーマやカラーをする人が増えており、2～3か月後はその客の再来店が見込める。
	○	美顔美容室（経営者）	・8月から一部商品が値上がりするため、その前にまとめ買いする客が出てくる。
	○	住宅販売会社（経営者）	・売り物件が集まれば集客が可能になるため、景気は上向く。ただし、物件の売却価格は少々下落することになるかもしれない。不動産購入検討者の予算は上がっておらず、建築費が上昇した影響により不動産価格は下がりそうである。契約が成立しても報酬を実際に受け取れなければ、無報酬となる懸念がある。
	□	一般小売店〔土産〕（経営者）	・観光客の動きは活発化し、地元の人々は節約という方向に2極化しており、このモードは当面変わらない。
	□	一般小売店〔生花〕（経営者）	・物価の上昇はまだ続くとみられる。
	□	一般小売店〔贈答品〕（経営者）	・3か月先も今の状況は変わらないとみる。4月から給与等が上がり所得は増えるが、その分物価も上がっており、結果的に売上の利益、客の様子などは現状のまま見込みである。給与が上がっても、物価が高くなっているため、売れる量は変わらない。
□	一般小売店〔酒類〕（経営者）	・飲食品値上げが発表されており、消費者の飲食店利用はますますシビアになってくる。そのため、飲食店での飲料の販売は引き続き悪い状況が続く。	
□	一般小売店〔果物〕（店員）	・3か月ほどでは変わらない。	
□	百貨店（売場主任）	・店が駅の真上にあるため、平日でも来客数が多い。紳士フロアでも女性客がウロウロしていたり、下見のようにふらっと見に来る人は多いが、売上は厳しい状態が今後も続くとみられる。	

<input type="checkbox"/>	百貨店（総務担当）	・株高による資産効果などもあり、高単価の売上は受注状況なども踏まえ、当面確保されるものと想定している。一方で暑さが厳しくなると見込まれており、来客数に影響が出てくるとみられる。更に包装資材や建設コストの増加がみえており、売上は確保しても、経費面が大きく増加する可能性が高く、利益へのインパクトがこれから少しずつ現れてくる。
<input type="checkbox"/>	百貨店（販売促進担当）	・富裕層の景況感が悪くなる要因は見当たらないため、現状維持が続くとみる。
<input type="checkbox"/>	百貨店（営業企画担当）	・急激に変わることはない。
<input type="checkbox"/>	百貨店（販売担当）	・今後もイベントや販売促進施策による集客は期待できるが、物価上昇の影響もあり、客の購入意欲はまだ慎重な印象を受ける。売上は施策の有無によって左右される状況が続くとみられる。
<input type="checkbox"/>	スーパー（店長）	・6月以降に電気代の値上げやナフサの影響による商品値上げが報道され、買い控えは続く。
<input type="checkbox"/>	スーパー（店員）	・来客数も売上も今のところ下がらないとみられる。
<input type="checkbox"/>	スーパー（販売担当）	・値上がりする商品もまた増えているため、買い控えはあるとみている。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（店長）	・このまま売上、来客数共に前年比2%前後減少の状況が続くとみられる。夏に向けて、電気料金の値上げ、あるいはその他の諸物価の上昇により、店の経営環境も悪くなる見込みで、全体的に経営は変わらないか、あるいは下向きになる。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（店長）	・コスパの悪い商品であっても供給がストップされない限りは、購入する常連客がいるため、経営が傾くほどの危機感を生じていない。しかし、景気が浮上するような要素は見当たらないのが現状である。
<input type="checkbox"/>	家電量販店（店員）	・検討から購入決定までが速い傾向にあり、特に変化していく感じはない。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（営業担当）	・賃上げ以上に物価が上がっていて、食品等の生活費が高いため、消費を抑えなければならないという意識が強くなっている。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（経営者）	・インフレの流れに中東情勢が重なり消費者の購買意欲は減退している。エンジンオイルや塗料など石油由来の商品の入荷が滞りつつあり、新車以外のサービス収益にも影響が出始めている。中東情勢が長引くようであれば、一段の下押し圧力が掛かる可能性がある。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（経営者）	・中東情勢の影響による社会不安も引き続きあり、車両に掛ける費用や旅行費用は節約対象になる。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（経営者）	・大手勤務の人と中小勤務の人、株価高の恩恵を受けている人とそうでない人等、景気が良い層と良くない層の格差が広がっている印象だが、全体としては変わらない。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（従業員）	・これから生活に関してのいろいろな物の価格上昇が起こるとの話が出ている。生活のベースとなるコストが上がるならば、客の購入に対する選択眼はますます厳しいものとなってくる。客に必要とされるピントの合った提案ができるかが大切である。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（販売担当）	・車両本体価格がかなり値上がりしており、車検を受ける客が多くなっている。そのため、販売量が伸び悩んでいる。
<input type="checkbox"/>	その他専門店〔書籍〕（社員）	・引き続き物価の上昇が影響し、取扱商品においても価格改定が続くことから、購入量が抑えられると懸念される。
<input type="checkbox"/>	高級レストラン（経営企画）	・中東情勢等から法人の会食控えと、また、物価高の影響を受け、夏休み前の節約モードに突入する。
<input type="checkbox"/>	一般レストラン（経営者）	・客は皆、節約のため外食や外飲みを控える様子がみられる。
<input type="checkbox"/>	その他飲食〔ワイン輸入〕（経営企画担当）	・円安による値上げの影響を懸念している。現時点では消費者の購買意欲は旺盛だが、どこまで値上げについてこられるか不安である。
<input type="checkbox"/>	観光型ホテル（支配人）	・この先も、観光利用の宿泊予約が好調である。外国人よりも日本人の利用が増えている。地元利用が主となるレストラン・宴会利用は、引き続き前年を下回る傾向にある。
<input type="checkbox"/>	都市型ホテル（総支配人）	・夏休みの宿泊は期待できるが、宴会はローシーズンである。
<input type="checkbox"/>	都市型ホテル（営業担当）	・引き続き株高、円安で原価圧迫はあるが、客にとっては追い風傾向となる。

□	旅行代理店（経営者）	・直近の海外旅行は、燃油サーチャージが落ち着かない限り敬遠されるとみられ、夏は余り期待できない。中東情勢が落ち着いてくれることを願うばかりで、先の見通しが難しい。9月のアジア競技大会開催により、市内ホテルの貸切りや当地域の国際空港発着便も混んでいて、盛り上がりには期待はするものの、自身の周囲では地元でありながら余り盛り上がりが見られない。
□	旅行代理店（経営者）	・大きなイベントやゴールデンウィークのような連休にぎわいを作り出せなければ、来客数の増加は望めない。
□	旅行代理店（営業担当）	・燃油サーチャージの倍増による旅行代金の増加、また、旅行中の滞在費の負担増加は、かなり深刻な問題である。旅行計画の見直しや旅行控えも増えていくとみる。
□	通信会社（営業担当）	・自社の販売価格や人件費の値上げがあり、他社への対抗としてかなり厳しくなっている。
□	テーマパーク職員（総務担当）	・園内で順次開催予定の企業福利厚生イベント等により、今後も一定数の関係者の集客は確保できるとみているが、梅雨入りや台風に関する情報に接するようになり、全体の集客見込みについては大変気掛かりである。
□	美容室（経営者）	・世界情勢の不安定さや物価の上昇などで明るい話題がないため、当分はこの状態が続く。
□	住宅販売会社（従業員）	・建築資材の不足が多くみられる。対応は行っているが、どこまで影響が出るかという状況である。
□	その他住宅〔室内装飾業〕（従業員）	・今のところ好転する材料がない。
□	その他住宅〔不動産賃貸及び売買〕（営業）	・価格高騰が落ち着き回復しないと見当が付かない。
▲	商店街（代表者）	・平日のインバウンドを含む来客数が減ってきている。
▲	商店街（代表者）	・中東情勢が収束しない限り、景気の回復は難しい。備蓄している石油やナフサが尽きて本当に足りなくなってしまうと、更なる景気の悪化もあり得る。
▲	一般小売店〔生活用品〕（販売担当）	・原油価格高騰の影響が続くと、いよいよ生活の余裕の部分にまで金が回らなくなってくる。
▲	百貨店（営業担当）	・日常に資材不足がみられるようになり、警戒感など消費者意識にも影響が出てくる。
▲	百貨店（販売担当）	・シールやフィギュア等の趣味雑貨系は引き続き好調である。ハンディファンも気温の上昇とともに一気に動いているが、物価高の影響なのか、年齢が上がると買い控えがある。
▲	スーパー（店長）	・特売比率を上げて購入点数が伸びないため、客単価の下落傾向が出てきている。
▲	スーパー（店長）	・今後も消費者の節約傾向が想定される。
▲	スーパー（店員）	・これから猛暑に突入していくため、午後の時間帯の来客は減少する。特に売上を上げるような旬なものもなく停滞が続くとみられる。
▲	スーパー（店員）	・ナフサ関連を始めとした原材料費高騰による値上げ要請が続き、7月頃から値上げが主力カテゴリーに波及することが確定している。
▲	スーパー（支店長）	・世界情勢の影響により日を追うごとに景気が悪くなっている。やはり1番はイランの石油問題に伴う物価上昇による消費の鈍化は避けて通れない状況にある。このまま物価が上がり続けることにより、ますます消費者の購買意欲は下がる一方で、嗜好品や趣味に欠ける金などの余裕がなくなることで、全体的な景気減退が避けられない状況になる。
▲	コンビニ（店長）	・商品によって入荷が不安定なものが出てきた。また、値上げラッシュで消費に影響がある。
▲	コンビニ（企画担当）	・前月より売上の減少傾向が進んでおり、状況が悪くなっている。
▲	コンビニ（エリア担当）	・この先は、値上げの動きが更に加速化することが懸念される。菓子等加工食品の大幅値上げが控える等、商品値上げによる購買状況の変化はまだ続くとみる。
▲	コンビニ（エリア担当）	・中東の海峽問題関連でのコスト増加による価格上昇で、更なる客離れも想定される。
▲	コンビニ（店長）	・中東事情の影響により包材関係の値上げがあり、商品の販売価格が更に増加するおそれがある。値引き販売促進が効果的ではあるものの、過去に好評だった商品が200円超えになり、景品表示法の関係で販売促進を打てなくなっている事実もある。

▲	コンビニ (店長)	・中東情勢でやや不安が出始めている。ナフサ不足で包材等にも今後影響が出るとみる。
▲	コンビニ (商品企画担当)	・中東情勢の影響により徐々に悪化するとみられる。
▲	コンビニ (本部管理担当)	・3か月後も景気が更に悪化する理由は、世界的な資源価格の高騰と輸入インフレの直撃である。中東情勢の緊迫化による原油価格高騰と、歴史的な円安のダブルパンチにより、特に小売業は電気代や物流コストが更に跳ね上がる。これにより3か月後は状況が悪化するとみられる。
▲	衣料品専門店 (経営者)	・物価高が続き、洋服を購入する気になれない客が多い。
▲	家電量販店 (営業担当)	・季節商材の動きもおさまり、非常に伸びている今に比べて3か月後は悪くなっている。
▲	乗用車販売店 (従業員)	・販売停止車種が多く、販売再開しない限り販売台数の増加は見込めない。
▲	乗用車販売店 (従業員)	・今のところ、新車の販売には影響がないが、整備に関しては様々な部品の供給に制限がある上に、仕入価格も今までに経験したことがないような上昇の連絡を受けている。客に対して、それほど値上げはできないため、大変苦しい状況が続く。
▲	住関連専門店 (営業担当)	・建築資材の値上がりで現場自体の動きがやや鈍くなっている。契約も進んでいない部分もあり、新規物件については更に悪くなることが見込まれる。ただし、中小のリニューアル工事に関しては予定どおり進んでおり、そちらの方で補うように対応している。
▲	その他専門店 [貴金属] (経営者)	・円安により価格高騰が進むなか、消費者の節約志向が加速しているとみる。
▲	その他小売 [ショッピングセンター] (経理担当)	・新設鋼橋発注量や民間建設投資、鉄骨需要が低迷状況であることに加え、ウクライナや中東情勢の不安定さの影響から、先行きは極めて不透明である。
▲	一般レストラン (スタッフ)	・消費税減税の話が出ているが、いつ実施されるかが未確定であるため、それまでは厳しい状況が続く。
▲	その他飲食 [仕出し] (経営者)	・現状ぎりぎり物価上昇をしのいでいるが、これ以上は耐えきれなくなる。
▲	都市型ホテル (従業員)	・予約数から判断した。
▲	都市型ホテル (経営者)	・中東情勢の安定が不確実であるため、現状が継続すれば更に景気は悪化するおそれがある。
▲	旅行代理店 (経営者)	・需要減退の傾向が少しずつみえており、来客数に準じている。
▲	旅行代理店 (経営者)	・中東情勢の先行きが見通せない。
▲	旅行代理店 (営業担当)	・上期の団体旅行の出発件数としては、5月下旬から6月に集中しており、社員旅行など客単価の高い案件が多い。反面、7月～8月は子供連れの日帰り行事、部活の送迎バスなど件数も少なく、ほとんどは単価の低い案件である。
▲	タクシー (従業員)	・今年の夏も猛暑が予想されている。前年や前々年の実績からは暑ければ暑いほど特に高齢者の外出時のタクシー利用は伸びており、今年も前年以上の利用を見込んでいる。その反面で燃料やオイル、タイヤ等の値上げ及び人件費の高騰もあり、利益面での課題は多く、先行きは不安である。
▲	通信会社 (企画担当)	・物価高、いろいろな物不足など先行きを見通せない不安定な状況がしばらく続くようにみられる。
▲	テーマパーク (職員)	・このまま中東情勢や日中関係の影響が続けば、国内も値上げが続き、消費が減るとみる。
▲	パチンコ店 (従業員)	・お盆前に商圏内で同業他社が開店する見込みで、顧客流出が予想される。
▲	理美容室 (経営者)	・いろいろな食料品の値段が上がり、段々と景気は悪くなるとみられる。
▲	美容室 (経営者)	・電気代やガス代、水道代の値上がりなどが生活を圧迫している。美容などの消費に掛ける金がなく、景気は悪くなる。
▲	その他サービス [介護サービス] (職員)	・こん包資材だけでなく、仕入商品の値上げについても徐々に案内や相談が出てきた。秋に向けて一段とコストアップの様相になるとみる。

	▲	その他住宅〔住宅管理〕 (経営者)	・物価高に加え中東情勢による影響と、施主にとっては心配なニュースばかりで困惑している。施工にブレーキが掛かり、景気の冷え込みが懸念される。この先、夏から来春まで苦戦を想定してしまう。
	▲	その他住宅〔展示場〕 (従業員)	・中東情勢が落ち着くまでは厳しい。また、建設関連では、人手不足も深刻な問題となっており、新しい住宅や施設の着工が以前よりも難しい状況となっている。
	×	商店街 (代表者)	・物価が高くなり、買い控えが加速する。
	×	商店街 (代表者)	・中東情勢による影響に対してまだ解決のめどが立っていないため、何ともコメントのしようがない。7月以降は物価が更に上がり、各メーカーからは3割上がるとの通告がある。この先大変なことになる。
	×	コンビニ (店長)	・定価販売のたばこは前年並みの売上はあるが、アルコール類はスーパー、薬局などと価格差があり減少傾向である。物価上昇による節約志向が強くなるようにみられる。
	×	乗用車販売店 (従業員)	・世界情勢が不安定であることからまだ当分悪い状態は続くと思われる。
	×	一般レストラン (従業員)	・2割に達するほどの値上げラッシュとなる。
	×	観光型ホテル (経営者)	・いつも出だしは良くない。前年比では宿泊者数の伸びが若干下回っているため、景気は悪くなると判断した。理由は良く分からないが、宿泊の予約ペースが遅れている。このまま終わってしまうのは気になるところではあるが、需要が弱含みであり、また、宿泊者数の動向次第である。
	×	タクシー運転手	・中東情勢による影響が市場に広がっている。様々な物の再値上げやずっと続く物価高の影響を受け、客足が悪くなっている。売上も非常に低迷しており、ノルマを達成できない状態である。景気が低迷しているにもかかわらず、会社が足切りラインを上げたため、どんどん生活苦になっている。会社も今の市場の状況を把握して、社員が普通に生活できるように考えなくてはいけない。
	×	テーマパーク (職員)	・長雨や猛暑により来客数は減少する。また、中東情勢による印刷物の値上げ情報もあるため、生活必需品の値上げが続くことが予想される。夏休みは外出を控える要素がかなりあるため、屋外施設は厳しい夏となることが予想される。
	×	設計事務所 (経営者)	・全く種まき案件が存在しない。
	×	住宅販売会社 (従業員)	・6月から商材の値上げを告知している会社が多く、各種補助金も不透明である。また、ナフサ不足が更に深刻である。ものが入らないため仕事ができないという状況が深刻化しそうである。
	×	住宅販売会社 (従業員)	・下請業者から、今すぐの工事ならという条件での見積りを出されることもあるが、2か月後になると納入すら予測不能ということで、そもそも見積りを出してくれない。これでは客との交渉すらできない。
企業 動向 関連 (東海)	◎	—	—
	○	輸送業 (エリア担当)	・中東情勢の動向により判断した。
	○	公認会計士	・海外情勢は落ち着いてくることが予想される。一方で、円安は止まらず為替介入も少しずつ行われている状況であり、今後は金利上昇の可能性が高まっていることから個人消費は落ち着くことが予想される。さらに、年末に向けて更なる物価上昇も見込まれることから、ますます中小企業の営業利益が減るとみられる。
	□	パルプ・紙・紙加工品製造業 (顧問)	・中東情勢の影響が大きく、ナフサ不足や原材料価格の高騰や物価上昇、更に円安の不安定化により、景気は現在と変わらない。
	□	化学工業 (営業担当)	・1か月、2か月後の状況は不透明である。
	□	化学工業 (総務秘書)	・景気を悪くする具体的なトピックがまだないため、景気がじわじわと悪くなるのではなく、あるときに暴落すると推測する。
	□	窯業・土石製品製造業 (社員)	・世界情勢の不安定さは気になるが、自社分に関しては、今のところ大きな影響がみられない。
	□	一般機械器具製造業 (営業担当)	・A I 関連の設備投資は引き合い数等から判断すると、北米と東南アジア共にまだしばらくはこのまま継続しそうである。

□	電気機械器具製造業（経営者）	・取引先の設備投資がある程度期待できるため、その面ではやや景気は良くなるが、利益率がかなり下がっており、また、部品価格が高くなっているため、全体的には景気は今月と変わらないとみる。
□	電気機械器具製造業（営業担当）	・余り変化しないとみられる。
□	電気機械器具製造業（企画担当）	・国民の所得が増えない限り安定した内需の広がりには期待できないため、外需頼りの経済になる。また、外需頼りの経済は世界情勢に左右されるため予想は難しい。
□	輸送用機械器具製造業（品質管理担当）	・新しい仕事が入り始めているが、ナフサ不足の影響により手に入らない作業用品等が出てきた。値段も上がっている。
□	建設業（役員）	・中東情勢の先行きが不透明で、景気もどうなるか正直判断が付かない。
□	建設業（営業担当）	・設備等の補修やウォーターPPPまでとまではいかないが、災害対策に向けた仕事に関しては比較的通りやすい状況である。ただし、部品の値上がり青天井に近く、利益を見込む段階で金額が上がってしまうため、その辺りのやり取りが難しい。また、自社でも競合他社でも元請でも無駄を省くことを考えているため、そのような状況でどのようなサービス提供をしていくのかを見直す必要がある。
□	輸送業（経営者）	・消費者心理の冷え込みに加え、石油化学関連製品の工場稼働率の低下が長引く。
□	輸送業（従業員）	・原油価格の先行きの不透明感や物価上昇に備えて行われる駆け込み需要や買いだめにより、一時的な需要の押し上げは想定されるものの、全体としての景気環境は3か月後も大きく変わらないとみる。
□	輸送業（従業員）	・中東情勢の動向やナフサ問題の影響による事態がしばらく続くと見込まれるため、しばらく同様の傾向が続くとみる。
□	金融業（従業員）	・政治的に不安定な状況により、変わらず物価が上昇することから、景気は変わらないとみる。
□	金融業（企画担当）	・取引先による人件費や材料費等の見直しが原価率改善にみられるのに相応の時間を要することから、当面は現状の景気が続くとみる。
□	不動産業（経営者）	・今後は前年と同様に曇りや雨の日が多くなりそうであるが、外出や遠出をする人は少しずつ増していくとみられる。今後の売上は増加し、前年を上回る状況が続く。
□	不動産業（職員）	・少しずつ商品値上げの波は来ているが、今のところすぐに消費に影響する様子は見られない。
□	広告代理店（制作担当）	・多方面にわたって物価が上昇しているため、広告の受注量等が増える見込みはない。
▲	食料品製造業（社員）	・諸原料価格の上昇により、更なる価格改定を予定しており、今後は販売量の減少による売上減少が見込まれる。
▲	食料品製造業（営業担当）	・値上げによる買い控えが受注量に現れている。
▲	食料品製造業（経営企画担当）	・中東情勢の行方は依然不透明で、包装資材関係の価格高騰、調達不安が高まる。
▲	金属製品製造業（従業員）	・中東情勢の影響は仕入れや購買面だけでなく、プロジェクトの延期や規模縮小など需要面でも今後顕在化すると懸念している。
▲	電気機械器具製造業（経営者）	・部材等の高騰化及び入手困難な状況が今後発生するため、生産に支障を来すことがと予測される。また、価格等の転嫁についてはやむを得ず、了解をもらえるような環境にあるため、極端に変動はないとみられるが、若干精算調整等が入り、景気はやや悪くなる。
▲	輸送用機械器具製造業（管理担当）	・中東情勢が長引いて物価高騰が続く、電気代が心配である。さらに、ガソリン補助が終了することがあれば生活できない。
▲	輸送業（従業員）	・中東情勢の影響により、原油価格高騰だけではなく、石油関連製品の不足が発生している。運送業界だと、オイルや燃料添加剤等もそうだが、最悪の場合走りたくても走れない状況になることを危惧している。
▲	輸送業（エリア担当）	・物価やガソリン価格は上昇しているのに、運送単価はほぼ上がっていない。
▲	通信業（法人営業担当）	・物価高の原因が、複数絡み合っ解決しほぐせない状況である。日本が経済的にも精神的にも停滞期にある感覚が広がっている。なかなか抜け出す方法が見つからない。

	▲	金融業（従業員）	・消費者は円安と石油価格の上昇に苦しんでいる。いろいろな業者においても、物流などでも経費がかさんでおり、様々な分野において景気は非常に苦しい状況が続くとみられる。
	▲	新聞販売店〔広告〕（店主）	・一時的に需要と供給のバランスが崩れているだけと考えるが、不安が拭えない。
	▲	会計事務所（職員）	・原油の供給が順調になっても、国内での石油製品の流通がスムーズになるまでにはしばらく時間が掛かる。通常に戻るまでは、景気の回復は期待できない。
	×	鉄鋼業（経営者）	・石油製品の目詰まり、鉄鋼メーカーの市場を無視した一方的な値上げにより今後ますます売行きが悪くなる。
	×	金属製品製造業（経営者）	・各種材料の値上がりを考慮して先に販売している受注があるため、将来販売が落ち込む恐れがある。
	×	通信業（総務担当）	・中東情勢の影響による石油製品の行方次第であるが、まだ景気は悪くなくとみる。
	×	会計事務所（職員）	・6月以降、金属加工業では必須である刃物と切削油、潤滑油の大幅な値上げが行われる予定である。さらに、材料となるアルミや銅の単価も大幅に値上がっているため、今後かなりの利益減少が懸念される。
雇用 関連 (東海)	◎	—	—
	○	—	—
	□	人材派遣業（営業担当）	・中東情勢次第で景気の先行きはどちらにも変わる可能性を秘めている。ただし、政府の対応により、我が国においては大きな悪化にはつながらないとみる。
	□	人材派遣会社（営業担当）	・求職者数の増加が見込めないため、採用者数は横ばいから減少の可能性が高い。
	□	人材派遣会社（営業担当）	・子ども・子育て支援金の徴収も始まり、ますます家計は苦しくなったとみている国民が多い。
	□	アウトソーシング企業（エリア担当）	・中東の海峡周辺の緊張が続き、原油や石化製品の供給リスクが意識されており、原油価格の上昇によるエネルギーコスト増加、樹脂・ゴム系部品のコスト上昇リスクが心配である。また、中東向け自動車輸出は減産の影響がどこまで続くかが今後の課題になる。
	□	職業安定所（職員）	・中東情勢次第によっては、供給不足や調達先の調整などの対応を迫られると不安視されているものの、現状影響がないと答える事業所が一定数ある。
	□	職業安定所（職員）	・中東情勢に起因する原材料費高騰を始めとして、従前から続いている燃料費や運送費、人件費などの各経費の高騰により、価格転嫁を進めることが困難な中小企業では、事業活動への大きな負担が長期間継続し、変わらず厳しい状況となっている。一方で、受注が堅調な産業もあるが、物価高騰などに伴う消費動向の停滞、世界情勢を踏まえた経済動向への懸念等により、新たな求人提出を控え、引き続き様子見をしている産業も少なくない。求人提出を控えている産業が一部見受けられるものの、現時点で大きな生産調整や雇用調整などの情報は入っておらず、世界情勢次第ではあるが、直近での景気動向の大きな変化は生じないと判断する。
	□	職業安定所（職員）	・求人、求職の状況は変わらない。
	□	民間職業紹介機関（窓口担当）	・順調に受注増加の傾向にある一方、稼働多数の企業が体制見直し等で今後の増員の見込みが薄いケースが出てきている。同時に稼働者の短期傾向も1つの要因である。
	□	民間職業紹介機関（営業担当）	・地政学リスクを踏まえ利益確保に動く企業も多く、採用自体はオープンにしているが、要件を満たす人材か否かの判断基準は上がっている。新規案件の発生により転職頭在層に関しては様々な案件が流通している時期でもあるため稼働される方が増加する見込みである。
	□	学校〔大学〕（就職担当）	・中東情勢の影響や物価高などで先行きは不透明である。ただし、新卒求人については、今後2～3か月先で大きく変化しないとみる。
	□	学校〔専門学校〕（就職担当）	・前年同期と比較して採用状況に変化はないが、採用基準にAIを活用している就職活動学生が増加しており、面接等の評価に影響が出ている状況である。今後の指導を再検討している。
	▲	人材派遣会社（社員）	・予約状況が余り良くない。中国からのインバウンド減少が響いている。

▲	新聞社 [求人広告] (営業担当)	・中東情勢の影響が長引いており、原材料価格の高騰などもあり、これまでと同じだけの採用予算を確保するのが難しくなる可能性がある。
▲	職業安定所 (職員)	・中東情勢の状況が改善すれば動向が変わる可能性があるが、現状のままでは、ますます事業に影響が出てくる企業が増えることが見込まれる。
▲	職業安定所 (職員)	・原材料価格の高騰が製造関係の過程に響くという声がある。
▲	職業安定所 (職員)	・中東情勢の解決が見通せない。
▲	職業安定所 (職員)	・塗料等の不足が深刻化し、廃業等が一部発生し始めており、製品が完成納品できず運転資金等へ与える影響を考えると、今後も多数発生することが懸念される。
×	人材派遣会社 (社員)	・求職者を集めようにも呼び込む材料としての求人がなく、好転する見込みがない。
×	人材派遣会社 (営業担当)	・次世代電気自動車開発ストップの影響が発生する可能性がある。